

# 飲水思源

町長 松岡市郎

## 椅子に座り考える！

椅子は座る居場所だと考えていたが、別な意味もあつた。それは「大臣の椅子」「社長の椅子」「○○の椅子」などによりに役職を表すものである。

椅子と言えば、人々が「織田コレクション」と呼んでいる椅子の収集コレクションがある。織田コレクションの存在を聞き、「工芸の町」東川町に展示されては、と何人もの方々から提言をちようだいでいた。

本人には大変失礼なお話ではあるが、既にこの世に存在しない、遠い方の遺産をこのように呼んでいるものと思つていたら、先月ご本人がお見えになりお会いすることとなった。

東海大学旭川キャンパスのくらしデザイン学科教授である織田憲嗣氏は、小職とは年齢の差もなく、現在は東神楽町にお住まいで、あまりにも近い存在であることを知り驚いた。教授は世界の椅子の研究とコレクションに長年係わり、その6割はデンマークの家具と話された。

今、町中心市街地に賑わいを作り出すことが検討されているが、活性化には魅力が必要である。人々の暮らしと深く係わつてきた椅子や各種のクラフト作品展示を通じて、古今東西の職人の技を鑑賞する。「この

椅子にはどのような人が座るのかな」「このクラフトはどのような人が作つたのか」などと想像しながら、さまざまな個性的作品を鑑賞する。さぞかし楽しいだろう。

常設展示は多くの人々の魅力になることと考えている。生活文化の保全は町の将来の大きな価値でもある。議会や関係者と相談し、誘致活動を展開したい。織田氏も極めて前向きな姿勢を表してくれている。

さて最近「国民の皆さんの目線」と目線ということが良く使われている。ある人が言っていた。

「○○の目線」とは自分が座つている「椅子から離れて」見聞することから始まる、と。日常業務においてさまざまな問題に遭遇するが、現場に足を運び、よく意見を聞き、判断することが必要であることは言うまでもないし、住民福祉のさらなる向上を目指そうとする時には、「前例を超える」決断をする勇氣も必要なのだ、と。

公務とは椅子に座り考え、時には椅子を離れて見聞し、より高いものを目指して決断し実行することである、と教えられる。将来に向つて住民福祉向上を図るためには、「椅子は考え、そして決断するため、大切な最小の居場所」でもあるのだ。

## 短歌

冬近し結球おそき白菜をピールで覆ふ気休めなれど  
起つ羊臥せる羊の群れる丘その閑さや風青く立つ  
類なずる死角に張りし蜘蛛の糸真実知らぬとんぼよ哀れ  
名ばかりの多忙なれどもひと刻を秋桜一本手折して眺む  
夢で逢ふ友は今でも若かりき忘却に近き朝の幸せ  
曾孫らのかるたの読み手限界か声からしつとも心みたして  
六十年夫の腕にいだかれて優しきに生く旅路はるかに  
逢いたいと知らせを受けて三十年ぶり友も老いたり我も老いたり  
急ぎ行くわれを追いてかにぎにぎし群れなす鳥の愛らしきかな  
花終り乏しき庭にランタンを灯す想ひに黄の薔薇咲けり

松倉和子  
宮坂敬子  
嶋崎ミエ  
中田治子  
笹田富士子  
矢沢ますえ  
永江栄子  
岡澤チズ子  
清水チヨ  
瓜生昭枝

## 俳句

朝毎に桜落葉を集めたり  
秋草にそつと打ち明け話かな  
窓を閉じ灯を座らしぬ寒の入り  
初しぐれ鯛焼二尾をひるげそす  
置炬燵今はなつかし足喧嘩  
埋火に灰かけ今日を昨日とす  
風呂吹に酒酌む夫の頬ゆるむ  
湯の宿に木枯らしの声聞く夜半  
小春日や少し離れて椅子二つ  
一区切りつけて語り部炭をつぐ  
遠出してとどのつまりの蕎麦湯かな  
炭火あかあか歴史のみこみ灰と化す  
軒先に干し大根と犬の背と  
うずみ火の立ちあがらんと火種掻く

長谷川 きみゑ  
小林 露葉  
青野 公花  
宮坂 紫雲  
杉山 ひろのり  
徳光 吐苦  
杉山 りつ  
山口 佐知子  
高瀬 潤  
石澤 清宏  
澤田 久美子  
松山 蓉子  
三島 智  
秋山 深雪